

資源循環に関する取組（表彰、ESD）の結果について

2026年1月19日

2025年日本国際博覧会協会
持続可能性局

1.持続可能な取り組みに関する表彰

大阪・関西万博を通じて実施された、持続可能性に関する先進的な取組について、参加者のさらなる取組を促すとともに、その成果がレガシーとして会期後も社会に広がっていくことを目的とし、持続可能な取り組みに関する表彰を実施。

公式参加者については、博覧会国際事務局（BIE）と協議を行い、国際審査委員会が公式参加者褒賞の一部門として持続可能性表彰（Sustainability Awards）を設け表彰対象を決定することとした。10月12日のBIEデーにおいて、以下のとおり公式参加者に対して表彰が行われた。

【受賞者】

自己建築パビリオン タイプA（1,500m²以上）：ドイツ連邦共和国
 自己建築パビリオン タイプA（1,500m²以下）：ルクセンブルク大公国
 モジュールパビリオン（タイプB,X）：ヨルダン
 シェアパビリオン（タイプC）：赤道ギニア共和国



持続可能性表彰（出典 博覧会国際事務局（BIE）ウェブサイト）



1.持続可能な取り組みに関する表彰

また同日、公式参加者以外の非公式参加者や営業参加者等による持続可能な取組に対して、博覧会協会から表彰を行った。受賞した各企業・団体からは、実施した取組について発表いただいた。

【受賞対象となった取組と受賞者】

脱炭素部門「万博会場内での脱炭素に関する取組」 5 者

資源循環部門「万博会場内でのリデュース・リユースにかかわる取組」 3 者

(主にプラスチック、食品ロス削減の取組)

調達部門「調達コードに基づく物品やサービスの調達」 5 者

(※持続可能性全般に関する基準 (共通基準))



脱炭素部門	受賞者	取組概要・授賞理由
	大阪ガス株式会社	会場内の生ごみや大気中から回収されたCO2を原料にe-メタンを製造し、会場内の施設に供給。先進的な実証を分かりやすく展示し、カーボンニュートラル実現に期待を抱かせる内容であることが評価された。
	株式会社きんでん	パビリオン等にAIを活用したエネルギーマネジメントサービスを導入するとともに、快適性評価値「エエきも値」の開発・実証を実施。会場内の省エネルギーに貢献したことなどが評価された。
	積水化学工業株式会社	万博会場のバスターミナルにペロブスカイト太陽電池を設置し、バス停の夜間照明に電気を供給。これから普及が期待される新規技術を多くの来場者が訪れる場所に大規模に設置したことが評価された。
	株式会社セブン-イレブン・ジャパン	会場内店舗において、水素発電や発電するガラスなどの最新技術を導入し、デジタルサイネージやインターネットで情報発信。こうした取組は脱炭素化への貢献が期待でき、全国展開の可能性を感じさせるものであり評価された。
	一般社団法人日本ガス協会	パビリオンにおける放射冷却膜材の活用や、主要構造物にリース材料を用いるなど、建物の運用から解体にわたって排出されるCO2を抑制する取組を実施。このようにライフサイクルカーボンを抑えた建物を実現した点が評価された。

1.持続可能な取り組みに関する表彰

資源循環部門	受賞者	取組概要・授賞理由
	株式会社アーバンリサーチ	会場内店舗における給水機の設置、什器の通常店舗での再利用、リサイクルTシャツの販売を実施。万博のレガシーと期待されるペットボトルの廃棄削減や、多くの什器を再利用する点が評価された。
	株式会社G-Place	会場の食品ロス削減に寄与するアプリ「万博タバスケ」の提供および運用を実施。食品廃棄物の削減効果が可視化できること、出品店舗、購入予約者共に無料で利用できることが特徴で、万博を契機にレガシーとして社会に広がることが期待され評価された。
	象印マホービン株式会社、株式会社中農製作所、株式会社スタッフ	ボトルとキャップを約20秒で洗浄できるマイボトル洗浄機を開発し会場内に10台設置。マイボトルの一層の利用を促すものであり、評価された。

調達部門	受賞者	取組概要・授賞理由
	大林組・大鉄工業・TSUCHIYA共同企業体	バイオ燃料の活用、労働環境改善に向けたDX技術の活用、福島県産材の大屋根リングへの活用など、調達コードの幅広い項目に高いレベルで取り組まれている点が評価された。
	株式会社鴻池組	バイオ燃料の活用、カーボンマイナスコンクリート二次製品の開発・採用などの実験的な取組を企業全体で熱意をもって推進している姿勢が評価された。
	株式会社セブン-イレブン・ジャパン	プラントベースフードの提供、包装材のバイオプラ化など、環境分野に特化して総合的に取り組み、インパクトを可視化している点が評価された。
	大成建設株式会社	日本の伝統的な建材である茅を、産地と連携して、再利用を見越した葺き方でパビリオンの屋根材料としてつくりあげ、茅材のサステナブルな魅力を伝えたことが評価された。
	株式会社FOOD & LIFE COMPANIES	人権面など総合力を高めながら、養殖の技術開発を通じて、天然資源によらない水産物のみを使用する寿司業界のロールモデルを示したことが評価された。

2. ESD（ジュニアSDGsキャンプ）

若者・子どもがSDGsや環境問題について自ら主体的に考え、行動・態度変容につながるESD実践の場を会場内に設置

来館者数 352,171名

展示、SNS連動企画

SDGs、環境問題に対する国、博覧会協会、協賛者等の取組に関するデジタル展示を実施
（タッチパネルPC10基を館内に設置）

会期前から、SNS連動企画を実施

体験型プログラム

SDGs、環境問題について、大学ゼミ、NPO、企業、自治体、国、博覧会協会等が制作した体験型プログラムを実施

プログラム実施者、発表者として若者や子どもが参画

博覧会協会が実施する環境技術に関するプログラムは事前学習の教材を提供

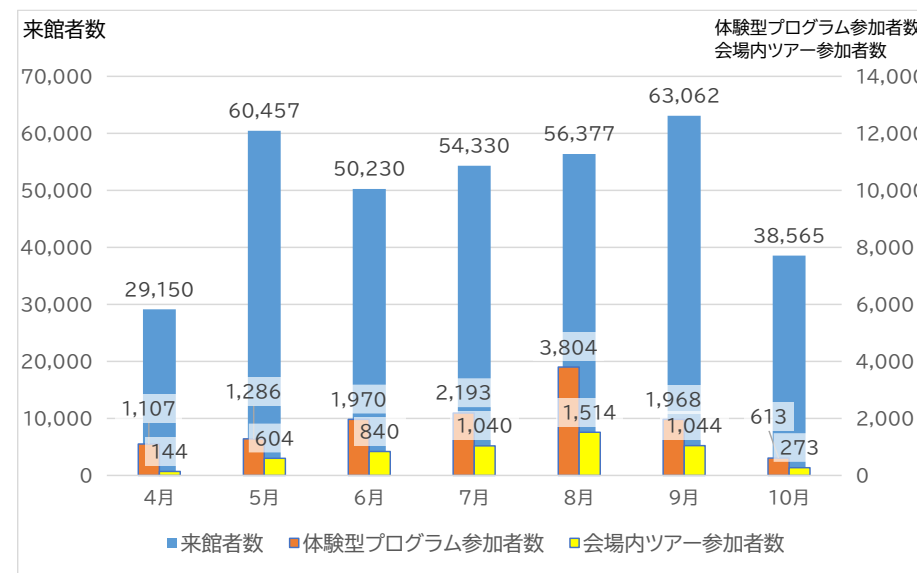
一部プログラムは海外パビリオン（オランダ、スイス、インドネシア）に協力いただき国際交流要素ありで実施

（323回実施、12,941名参加 ※入退場自由のプログラムは参加者の計数が難しいため参加者数に含まず）

会場内ツアー

脱炭素や資源循環、建築など、テーマに沿ってガイドマップを作成（一部はパビリオンに学生がインタビューを行い制作）

会場内に設定したコースを周り、解説する1時間程度のツアーを実施（全10コース390回実施、5,459名参加）



2. ESD（ジュニアSDGsキャンプ）

体験型プログラムの実施状況

大阪・関西万博ESDプログラム（スイス編）



スイス人のプレゼンターを招き、国の概要やスイスでのSDGsに関する取組を紹介いただき、日本との比較や自分達にできることをディスカッション

「HANKYU こどもカレッジ」ウミガメプロジェクト ～ウミガメふれあい体験&トークショー～



ウミガメたちを守るために私たちに何ができるか、ふれあいを通して考えるプログラム

～CONNECTING YOU TO 能登～ 生物多様性（強く生き抜く生き物たち）について 能登の小学生と学ぼう！



(出典)国連大学 サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK) ウェブサイト

能登の小学生も参加し、自分たちが行っている生きものに関する活動を紹介



2. ESD（ジュニアSDGsキャンプ）

会場内ツアーの実施内容

	テーマ	ツアータイトル
A	脱炭素・資源循環	「3R+Renewable」で自らの未来を創造するデコ活ツアー プラスチックごみなどから地球を守るために、万博会場内の3Rを通して個人の取組を考えるツアー
B	建築	若手建築家が手掛けるデザイナーズトイレツアー 公募により選ばれた若手建築家が、どのように「トイレ」のイメージを刷新し、そのあり方を提案するのかを学ぶツアー
C	脱炭素・資源循環	環境保全に特化したサステナブル体験ツアー 地球環境問題に取り組む日本企業の技術を身近に感じることのできるツアー
D	建築	建築界のノーベル賞「プリツカー賞」受賞建築家監修 パビリオン大解剖ツアー 世界的にも有名な建築家が万博で手掛ける建築について解説し、発想や意図、世界観を感じるツアー
E	建築	若手建築家が手掛けるユニークな休憩所ツアー 「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインコンセプトのもと、若手建築家の提案により”休憩所”がどのような個性や魅力を持つ施設に変わるかを知るツアー
F	脱炭素・資源循環	再生可能エネルギーで未来創造体験ツアー 再生可能エネルギー技術を体験するツアー
G	建築	どんな素材でできている？ ユニークな建築素材発見ツアー 特徴的な素材が使用されたパビリオンに焦点を当て、その意図やメリットについて解説するツアー
H	建築	過去と未来へ繋ぐ建築？ 循環型建築ツアー 過去に建築物として使用された資材を再利用したパビリオンや、会期後の利用用途が決まっているパビリオンを巡り、持続可能な建築物について考えるツアー
I	建築	世界が注目！ 木造建築ツアー SDGsの観点から欧州を中心に建設されている木造建築について、大屋根リングをはじめ会場内の特徴的な木造建築を巡るツアー
J	脱炭素・資源循環	ごみがエネルギーに？ バイオエナジー体験ツアー 会場内で出る生ごみをエネルギーに変換するバイオガスと循環型社会について学ぶツアー



会場内ツアーの様子

